

出願直前 国立難関 10 大学の一般選抜入試トピックまとめ

河合塾

2025/1/8

年が明け、2025 年度入試が本格化する。1 月 18・19 日の大学入学共通テストが終われば、いよいよ国公立大 2 次出願となる。ここでは国立難関 10 大学の一般選抜について、各大学の入試トピックを確認する。なお、教育課程改訂に対応した入試変更（共通テスト「情報」の追加による共通テスト必要教科・科目数の変更など）は、ここでは割愛している。

■北海道大

北海道大では、12 月末時点で理学部物理学科にフロンティア入試の欠員 6 名が出ている。これに伴い後期日程の募集人員が 3→9 名に変更になる。この後、2 月 12 日に最終合格者発表を予定しているフロンティア入試（Type I）で欠員が生じた場合、他の学部・学科でも一般選抜の募集人員増加が出る可能性がある。

なお、北海道大では共通テスト「情報」は得点化しない。合否判定時に成績同点者の順位決定で「情報」の成績を活用する。

北海道大 一般選抜のポイント

- 総合型選抜の欠員補充で、一部学部・学科で募集人員増
- 共通テスト「情報」は得点化しない

■東北大

東北大では医学部医学科の入学定員が前年から 1 名増員され 117 名となる。これに伴い前期日程の募集人員が増員となる。

東北大 一般選抜のポイント

- 医学部医学科の募集人員は昨年より 1 名増の 78 名に

■東京大

理科三類以外の 5 科類で第 1 段階選抜の予告倍率が引き下げられる。これまでより第 1 段階選抜通過者数が絞り込まれることになる。2024 年度入試では文科一類・二類で第 1 段階選抜が実施されなかったが、仮に今年度の志願者も 2024 年度と同数だった場合、第 1 段階選抜が実施される計算となる。なお、志願動向にほぼ影響ないものと考えるが、2025 年度入学者から授業料が 535,800 円→642,960 円に値上げされる。

東京大 一般選抜のポイント

- 第 1 段階選抜の倍率変更
文科一類・二類・三類 3 倍→2.5 倍
理科一類 2.5 倍→2.3 倍 理科二類 3.5 倍→3 倍

■東京科学大

昨年 10 月に東京医科歯科大と東京工業大が統合し誕生した東京科学大。入試は 2 大学ともそれまでの選抜方法を引き継いでいる。理工学系では理、工、情報理工の 3 学院で総合型選抜の拡大により、前期日程の募集人員が減員となっている。

東京科学大 一般選抜のポイント

- 理、工、情報理工学院で前期の募集人員減（ ）内は前年との差
理 143→128 名（-15 名） 工 314→261 名（-53 名） 情報理工 112→106 名（-6 名）

■一橋大

前期日程 2 次で実施していた英語の「聞き取り・書き取り試験」を取りやめる。英語の試験時間に変更はない。

■名古屋大

理学部では総合型選抜の導入により、一般選抜の募集人員が減員となる。入試科目では 2 次の国語がなくなる。また共通テスト・2 次の理科で「物理または化学のいずれかを含む」という選択科目の条件がなくなった。

工、情報学部では入学定員増などで一般選抜の募集人員が変更となる。工学部では電気電子情報工、機械・航空宇宙工学科で増員となる。一方、化学生命工学科では学校推薦型選抜の拡大により一般選抜は減員となる。情報学部では自然情報、コンピュータ科学科で増員となる。

医学部医学科では入学定員増による一般選抜の募集人員増のほか、入試科目では 2 次の国語がなくなる。

名古屋大 一般選抜のポイント

●理学部

前期の募集人員が前年より 5 名減の 215 名に、2 次の国語なくなる。

●工学部（前期）の募集人員変更（ ）内は前年との差

電気電子情報工学科 116 名（+10 名） 機械・航空宇宙工学科 145 名（+10 名）

化学生命工学科 85 名（-5 名）

●情報学部（前期）の募集人員変更

自然情報学科 34 名（+4 名） コンピュータ科学科 57 名（+4 名）

●医学部医学科

前期一般枠の募集人員は前年より 1 名増の 86 名に、2 次の国語なくなる。

■京都大

法学部では特色入試を後期日程で実施していたが、学校推薦型での実施に変わった。大学全体で後期日程を選抜する学部はなくなった。工学部では共通テストの成績利用方法が変わる。数学、理科の成績は昨年まで第 1 段階選抜のみに利用していたが、合否判定でも利用することになる。これまで外国語・国語・地歴公民の 3 教科のみ合否判定に利用されていたため、文系科目の平均点の変動が出願動向に大きく影響してきたが、その影響度は低くなりそうだ。なお、英語ではリーディング（R）とリスニング（L）の配点比率が 3：1 から 1：1 に変更される。

医学部医学科では入学定員の増員により一般選抜で募集人員増となる。

京都大 一般選抜のポイント

●法学部の後期日程廃止（特色入試の実施が後期日程から学校推薦型選抜にシフト）

●工学部（前期）の共通テスト数学・理科の成績を合否判定にも利用へ、英語の配点比変更（R：L=3：1→R：L=1：1）

●医学部医学科（前期）の募集人員は前年より 1 名増の 103 名

■大阪大

工、基礎工学部および医学部医学科では入学定員増により一般選抜の募集人員も増員となる。工学部では電子情報工学科で、基礎工学部は情報科学科で増員する。

大阪大 一般選抜のポイント

●前期募集人員の変更（ ）内は前年との差

工学部 電子情報工学科 173 名（+28 名） 基礎工学部 情報科学科 92 名（+18 名）

医学部 医学科 93 名（+1 名）

■神戸大

11 番目の学部としてシステム情報学部が誕生する。工学部情報知能工学科を発展させ、新学部とした。また、医学部には医療創成工学科が誕生する。こちらは医療機器開発を学ぶ学科。

工学部建築学科の後期では、共通テストの数学の成績は第 1 段階選抜時のみの利用になる。
医学部医学科では入学定員増による一般選抜の募集人員増がある。一方、保健学科は看護学専攻で入学定員が減員となる。これに伴い、前期日程で募集人員減、後期日程は廃止となる。

神戸大 一般選抜のポイント

- 学部・学科の新設
システム情報学部、医学部医療創成工学科
- 工学部建築学科後期で共通テスト数学は第 1 段階選抜のみ利用となる
- 医学部医学科（前期）の募集人員は昨年より 1 名増の 113 名に
- 医学部保健学科看護学専攻は入学定員減により前期募集人員が 63 名（－7 名）、後期日程廃止

■九州大

芸術工学部では前期日程の 2 次で面接を導入する。また、出願書類に志望理由書を追加する。薬学部では後期日程で 2 次の英語を取りやめる。また臨床薬学科では前期日程の 2 次で面接を導入するほか、2 段階選抜を導入する。予告倍率は 3 倍である。

九州大 一般選抜のポイント

- 芸術工学部
前期の 2 次で面接導入のほか、志望理由書を追加
- 薬学部
後期日程で 2 次の英語がなくなる
臨床薬学科の前期では 2 次で面接導入、2 段階選抜新規実施（予告倍率 3 倍）